

# 無人で自動走行可能

## 酒井重工業 ローター試作

酒井重工業は無人で自動走行ができるローラーの研究車両を試作した。大きさは10t級の土工用振動ローラーで、埼玉県久喜市のデモフィールドをはじめ、建設会社の複数の現場で実証試験を始めている。ゼネコンが管轄し、油庄シヨベルやダンブなど建設車両が多数行き交う大規模現場に加え、ローラー単体で施工する中規模現場でも運用できる車両を目指す。早ければ2022年度前半にも商品化する考えだ。



無人で自動走行ができるローラーの研究車両

無人施工により現場の労働安全確保に加えて、オペレーターの技量に頼らない安定した品質での施工が可能になる。研究車両は酒井重工業が独自開発している転圧管理システムを搭載した。マップングエリア化した場所や、決められた走行コース上を何回走行したか、きちんと締め固められたかを各種センサーやカメラで測定し、仕上りの品質を確保する。

建設業界では人手不足と現場の労働安全の見地から、無人施工や自動化の取り組みが進む。コマツや米キャタピラーなどが自動走行の油庄シヨベルを開発しているのをはじめ、鹿島や清水建設など建設16社も共同で施工ロボットを開発する計画を発表している。

建設現場はロボットや油庄シヨベル、ダンブ、ローラーなどさまざまな機械が稼働する。それだけに、機械単体の無人化・自動化と並んで、他の機械や他社製中との連携や協調をどうするかもポイントとなる。